

図書館だより

実用だけでなく、教養としての英語も

図書館長 村田 和穂



有明高専の〈英語〉は本科3年次までは文部科学省検定済教科書を使用している。この数年は主に2年生の授業を担当しているが、教科書の内容がこの20年で劇的に変化したことに深い感慨を覚える。まず、カラーの写真や図・グラフが多用され見映えが良くなった。加えて、扱う題材も環境問題、科学技術、異文化理解に関するものが多くを占めるようになり、以前よく取り上げられていた〈物語〉は完全に排除された感がある。高校生向けに多少の修正が施されていたとはいえO・ヘンリーやマンスフィールドなどの短編小説、また名作映画のストーリーを要約したもの（チャップリンの『ライムライト』等）を、かつて学生たちと一緒に読んだ時の感動は今も心に残る。その反面、昨今の時事問題は新たな知識を得ることもあるが不思議と後には残らない。そもそも〈物語〉を教材にするのは難しいところがある。なぜなら〈物語〉には登場人物の感情や心理が描かれているため、文脈によっては多様な解釈が許され、どれが正解と断定できない曖昧な表現もあるからだ。表面上は“I hate you!”（あなたなんか大嫌い）と言っても、実は反対のことを意味することさえある（AIにも判断できないのでは？）。嗚呼、人の心はなんと測り難いものか！それでも、私はそんな英語の〈物語〉を教室で読むのが好きだった。

話は変わるが、「アントレプレナーシップ入門」（旧「課題研究Ⅰ」）という2年生に開講されている授業科目がある（前期・必修）。私はこの科目を担当する機会が多いのだが、最近のテーマは主に〈『ロミオとジュリエット』を読む〉にしている。何故このような授業をするのか？理由は自分でもよく分からないのだが、心の奥底で〈愛〉とは（〈恋〉との違いは）？〈運命〉とは？〈生〉あるいは〈死〉とは？といった簡単には答えが出ない哲学的命題について、文学作品を通して少人数の若い学生たちと本音で語り合いたいからではないか、という気がしている。テキストに翻訳本（河合祥一郎訳 角川文庫）を使用し、毎回くじ引きで配役を決めて全員で音読するのだが、読み終えたあと、一人一人に〈心に残るセリフ〉を一つ選んでもらい、その箇所を英語の原文から正確に抜き出し、それぞれの単語の意味や発音を調べた上でレポートすることを課題にしている。そのために実用英語では特に必要ではない知識、例えば、シェイクスピア時代の二人称単数の代名詞 thou, thy, thee, thine についても丁寧に教えている。理系の学校だからこそ、実用から離れた文学の表現にも触れてもらいたい、ひいてはそれが彼・彼女たちの今後の人生の糧になるはず、という信念から情熱を込めて準備をするうちに、年々確かな手応えを感じてきている。今年の授業の最後にも書いた感想文に、「ありがとうシェイクスピア、ありがとう『ロミオとジュリエット』、ありがとう村田先生！」と一人の学生の興奮冷めやらないコメントを読み、この授業をやった良かったと心から思った。私も毎回〈心に残るセリフ〉を選び、皆と共有しているが、今回は有名なバルコニーの場面でのジュリエットのセリフ“My bounty is as boundless as the sea, My love as deep; The more I give to thee, The more I have, for both are infinite.”（私訳：私の気前の良さは海のように限りがなく、私の愛は海のように深い、あなたに与えれば与えるだけ、私も受け取ることになる、どちらも果てがないのだから）を選んだ。特に下線部には深く考えさせられる。ここでの〈与える〉と〈受け取る〉は、〈教える〉と〈学ぶ〉に置き換えても良いかもしれない。というのも、これまで4年間、同じ作品を毎回異なる学生たちと一緒に読んできたが、若い初学者にいろいろなことを〈与えた＝教えた〉つもりでいながら、実は私が一番〈受け取った＝学んだ〉のは間違いのないからである。ありがとう、受講してくれた学生諸君！

私のイチオシ



校長 大塚 弘文 先生

『大友二階崩れ』
(赤神 諒 著)

今年大河ドラマは豊臣秀吉・秀長の兄弟にスポットを当てた『豊臣兄弟!』。史実と異なる演出でSNSを賑わせていますが、フレッシュで勢いのある演技や唸らせるベテラン俳優の熱演に引き込まれて、毎週末楽しませてもらっています。高校時代に、世界史か日本史かを選択科目で選べと迫られたとき、「これからは世界に目を向けなきゃ」と意気込んだにもかかわらず、やたらと長く膨大なカタカナ人物名と中国三千年の歴史にあっという間に記憶メモリが不足して「ああ、日本史にしとけば良かった」と後悔したことと、中学生レベルの日本史の記憶さえ薄らいで不安を感じたことから、書店で何気なく手に取った司馬遼太郎の『坂の上の雲』がきっかけとなり、大学時代の私は『竜馬がゆく』、『義経』、『国盗り物語』、『関ヶ原』など歴史・時代小説を読み漁りました。睡眠時間も削って幾度も読み返したのがつい昨日のように思い出されます。(『街道をゆく』から内田康夫作品につながっていった愛読書遍歴については、またの機会があれば触れてみたいと思います。)

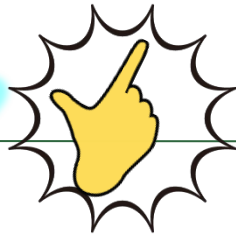
さて、今回ご紹介するのは赤神諒(あかがみりょう)の歴史・時代小説『大友二階崩れ』。豊臣兄弟が活躍した戦国時代～安土桃山時代(16世紀後半、1537年～1598年)の同時代に豊後府内(現在の大分県大分市)を本拠地として、南蛮貿易によって得た経済力を背景に、北部九州6カ国の守護として最大勢力を築いた武将に大友宗麟(おおともそうりん)がいます。本作品は彼が20歳のときに家督相続をめぐる内戦を経て大友家第21代当主となった「大友二階崩れの変」を題材にしたものです。大友宗麟は大分県内では有名なのですが、大分県を一步出ると知名度はガタンと低くなるようです。それはともかくとして、物語の主人公は彼ではなく、重臣であった吉弘左近鑑理(よしひろさこんあきただ)と吉弘右近鑑広(よしひろうこんあきひろ)の「吉弘兄弟」です。愚直なまでに“義”を重んじ騒乱に巻き込まれていく兄・鑑理と、妻子や家族への“愛”に生きる弟・鑑広という対極的なふたり。彼らのみならず、政敵や、家族、家臣など、とにかく個性豊かで魅力的な登場人物たちがそれぞれの想いを胸に懸命に生きた様、戦国時代の九州における群像が、ち密な調査に基づき史実を踏まえて生き活きと描かれています。フィクションも織り交ぜ世界観が創出されているのをご承

知いただき気楽に読んでもらえたらと思いますし、何より九州人にとっては馴染みある地名も当然ながら沢山でてきます。現代の風景と重ね合わせ当時に思いを馳せながら一気に読み進めることができる秀作だと思います。夏休みは終わってしまいましたが、読後に“聖地巡礼”の身近な小旅行を試してみるのもよいかもしれません。

最後に、柳川市がイチ押しの武将・立花宗茂をご存じの方も多いでしょう。彼の実祖父は吉弘鑑理、その人です。本稿執筆中の嬉しい新発見でした。



私のイチオシ



図書館運営室・室員（副館長）
正木 哲（建築コース）

『新版 思考の整理学』
（外山 滋比古 著）



「考える」ことの大切さ

本を読み、と、いろんな先生から言われることがありますか。私も、学生のうちにしたほうが良いこととして何かお伝えするとなったら、まずは「本を読み」になるかもしれません。その理由のひとつに、本を読むと、新しい言葉や概念に出会うことがあります。すると、今まで気にもしていなかったことが全く違う見え方をして、点と点が線でつながるような感覚が生まれ急に世界が広がったように感じることもある。言語の限界が世界の限界だといった哲学者もいましたが、もし今、自分が世界がつまらないと思っている人がいるとしたら、まずは本を読んでみることをお勧めします。本は、自分のみている世界を広げる最も手取り早い近道だと思っています。

さて、今回学生の皆さんに本を紹介することになって、私の専門に寄せすぎても偏り、せつかなら、低学年の皆さんにも、4・5年生の皆さんにも読んでもらいたい本はあるかと考えたときに、ふさわしいと思える本を思い出しました。外山滋比古（とやま・しげひこ）先生の『思考の整理学』です。この文庫本の帯を見てみると（本屋の文庫コーナーに行くと目立つところにだいたい平置きしてある）、累計300万部突破、全国44の大学で販売数1位と書いてある（大学の売店には書店があるので）。つまり、日本全国、多くの大学生が一度は手にして読んだことがあるよという大名著。私も、大学生の時に会って読みましたが、早く手にしていれば日頃の授業に向かう姿勢が変わったかもなと思わせるそんな一冊。

この本はエッセイという形式で書いてあり、一つの話が短くまとめてあり大変読みやすい。また、学生向けに書かれた本であり、学生時代を有意義に過ごすためのヒントがたくさん書かれています。中学校まで「生徒」だった皆さんが、高専に入って「学生」となった。これからどのような心持ちで「勉強」に向かうべきか気づかせてくれます。今の学生生活を少し俯瞰してみるきっかけにもなるでしょう。また、なにかと課題やレポートが多く自分の頭で考えなくてはいけない場面が多い高専生にとって、「考える力」を養うのに大変お勧めです。入学して、コースが決まって頑張ろうという低学年の皆さんにも、これから卒論がはじまるぞという高学年の皆さんにも、ぜひ一度は手に取って読んでもらいたい一冊です。

ところで、この本が書かれたのは1983年、私が生まれた年でした。43年も経った今でもこうして愛される本の締めめのトピックは、“コンピューター”。いよいよAIが当たり前の道具となりつつある時代になりましたが、ぜひ、コンピューターをAIに置き換えて読んでみてください。今こそ、人は何を考えるべきか問われているような時代。きっと、高専の5年間でどのように学び、どのように考えることが必要か、外山先生からの大切なメッセージを受け取ることができるでしょう。



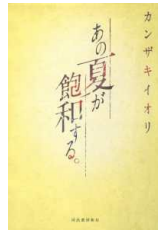
図書委員のおすすめ本

各クラスの図書委員に、みなさんに薦める1冊を選んでもらいました。
新着コーナーに置いてありますので、ぜひ、手に取ってみてください。

『あの夏が飽和する。』

カンザキイオリ 著

この本を読んで、僕は「もし自分がこの本の登場人物だったらどうするだろう」と考えました。特に主人公の千尋が、過去を背負いながらも誰かを救おうとする姿に感動しました。苦しい場面も多かったですが、人とのつながりや寄り添い合うことの大切さを改めて考えさせられる作品でした。



1年1組
中村 拓実さん

『Dr.STONE 声はミライへ向けて』

稲垣 理一郎 原作
森本 市夫 小説



1年3組
牟田 咲翔さん

科学好きな高専生へ強く薦めたい『Dr.STONE』の小説です。本編の知られざる科学クラフトの試行錯誤や、キャラたちの熱い絆を描いた3つのお話が描かれています。個人的には千空の高校入学時のエピソードがおすすめです。試行錯誤やものづくりの情熱に共感しまくる、胸熱な一冊です！

『アルジャーノンに花束を』

ダニエル・キイス 著
小尾 美佐 訳



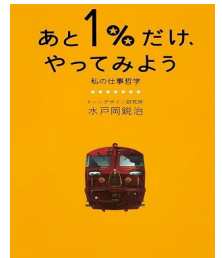
1年2組
平田 美葵さん

この本は、知的障害を持つチャーリーの「経過報告」を追う形で物語が進みます。手術で急速に賢くなった彼は、周囲との関係や過去の記憶を知っていきます。彼の運命はどうなるのか、ぜひ読んで確かめてみてください。

『あと1%だけやってみよう』

水戸岡 銳治 著

諦めかけた「あと少し」が劇的な差を生む！JR九州のデザインを手掛けた水戸岡氏が明かす、妥協しないモノづくりの真髄。デザインの枠を超えて、自分の限界をもう1歩超えたい人の心に刺さる情熱的な言葉が詰まっています。



1年3組
丸山 和玖さん

『ミモザの告白』

八目 迷 著

主人公が公園で目にしたのは、完璧な幼馴染の美少年がセーラー服を着て泣きじゃくる姿だった。キャラクターそれぞれの立場や複雑な想いが交錯する、切なくも熱い青春ストーリー。全5巻で完結する、読み応えのある作品です。



1年4組
武石 滉生さん

『サイレント・ウィッチ』

依空 まつり 著



1年5組
古賀 悠斗さん

沈黙の魔女と言われるモニカ・エヴァレット。ひょんなことから王子様の護衛のために学園に潜入することになってしまう。コミュ障なモニカの学園生活は大変なことがいっぱい！そんな中で周りの人にも助けられつつも頑張るモニカの姿がとても可愛く印象に残る一冊です。

『なぜ銅の剣までしか売らないんですか？』

エフ 著

「なぜ銅の剣までしか売らないんですか？」
物語は、マルという商人見習いの少年が抱いたこの小さな、しかし核心をついた疑問から始まる。この世界の真実を知ったとき、彼は何を思い、何を感じるだろう。エフが届けるハッとする物語、一度読んでみてはどうだろうか。

2年1組
板尾 龍征さん





『博士の愛した数式』 小川 洋子 著

『博士の愛した数式』は、記憶が80分しか続かない博士と家政婦の私、その息子のルートとの交流を描いた物語です。数学を通して心を通わせる3人の姿から、人とのつながりや思いやりの大切さや素晴らしさを感じられる作品です。

『哲学入門』 中村 雄二郎 著

すべての学問は哲学からはじまった。本書は、そんな哲学の視点から、科学、芸術、歴史、宗教など、人間社会の根本にあるものを考えていく。そして、この世界を記述した先にある「自己」とは一体何なのか。さまざまな分野を通して、人間と世界について考えさせられる一冊だ。



2年2組
平河 力哉さん

2年3組
國廣 蘭々さん

『告白予行練習』 藤谷 燈子 著

HoneyWorks原案の青春恋愛小説です。幼なじみへの恋心を隠しながら過ごす高校生たちの姿が、繊細な心情描写とともに描かれています。登場人物それぞれの想いが交差する展開に引き込まれ、恋や友情の大切さを感じられる作品です。



2年4組
小宮 智史さん

3年 環境生命コース
長野 心春さん

『十角館の殺人』 綾辻 行人 著

十角形の奇妙な館が建つ孤島で、ミステリ研究会のメンバーを次々に襲う見立て連続殺人。島での惨劇と本土での推理が交錯するスピーディな展開で、一気に引き込まれる圧倒的な読みやすさ。そして最後の一行で世界を一変させる伝説のどんでん返し。



2年5組
藤瀬 錬さん

『月とコーヒー』 吉田 篤弘 著

「何も起こらない日」も、見方を変えれば少し特別になる。『月とコーヒー』には、そんな日常に潜む小さな優しい世界が詰まっています。静かで温かい物語たちは、まるで夜に飲む一杯のコーヒーのよう。読み終えたあと、いつもの景色が少し違って見えてくる一冊です。



『絶望名人カフカの人生論』 フランツ・カフカ 著 頭木 弘樹 編訳

突然ですが、皆さんは生きるのが得意ですか？私は大変下手で、下手の極みを自負していますが、彼はそんな私の想像を遥かに超えてきます。彼の生き様、あなたも覗いてみませんか？そして、最後に貴方は想うはず。「嗚呼、この本を手にとって良かった」と。

3年 メカニクスコース
成富 萌華さん



『魔法使いハウルと火の悪魔』 ダイアナ・ウィン・ジョーンズ 作 西村 醇子 訳

ジブリ『ハウルの動く城』に原作があることをご存知でしょうか？映画では描ききれなかったお話もあり、緻密な伏線が張り巡らされていて楽しめます。全3巻のシリーズもので、ハウルたちが脇役に出てくる続編もおすすめです！

3年 ICLBコース
銭谷 遥子さん



『ゼロから学ぶ相対性理論』 竹内 薫 著

相対性理論は大きく特殊相対論と一般相対論に分かれており、この本の大半は特殊相対論の説明をしています。一般相対論の説明も後半にあります。難しいのでこの本では不十分です。一方、特殊相対論は基礎的な数学とちょっとした想像力さえあれば誰でもこの本で理解できるでしょう。



4年 ICLBコース
養父 翼さん

『流浪の月』 風良 ゆう 著

「愛ではない。けれどそばにいたい——」
世間からロリコン誘拐犯と被害女児の烙印を押された二人が、15年後に偶然の再会を果たす。他人の勝手な「善意」や「正しさ」がいかに人を傷つけるか。
普段の自分の行動を考えさせられる、本屋大賞受賞の傑作小説です。

4年 環境生命コース
外柙保 千晴さん



4年 情報システムコース
久保 夏輝さん

『ユング自伝1 思い出・夢・思想』

C.G.ユング 著
河合 隼雄/藤縄 昭/出井 淑子 訳

この本の最初の行には「私の一生は、無意識の自己実現の物語である」と、書かれている。正直何を書いているのか分からないが、この本はユングの記憶にある一番小さい頃から綴られているので、読んでいくうちに何となく分かってくる。心理学に少し興味のある人は、少しユングの人生に触れるのも面白いかも。



4年 メカニクスコース
松田 桃佳さん

『花は愛しき死者たちのために』 柳井 はづき 著

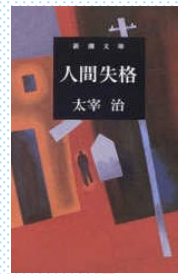
硝子の棺に横たわる死せる美少女エリス。彼女は腐敗せずに一人の男によって、ある時には墓守の青年の前に、ある時は一人の少女の前に運ばれてくる。彼らはエリスに惹かれてしまう。美しいものには毒がある。エリスのもつ毒にあなたは耐えることができますか？



4年 建築コース
加唐 誠央さん

『人間失格』 太宰 治 著

この本は、太宰治によって描かれる主人公の心情の変化に注目が集まりますが、戦前の日本社会を背景に、精神的な孤立や依存症など、人間が生きづらさを抱える現実を深く考えさせる作品です。家族、友達、先生など、様々な人からの視線を気にしている人に読んでもらいたい一冊です。



5年 エネルギーコース
山科 智暉さん

『傲慢と善良』 辻村 深月 著

婚約者の失踪を機に、現代の恋愛や婚活などに潜む「自己愛」と「生きづらさ」、「他者への品定め」といったリアルを抉り出します。善良に生きる普通の人々が抱える傲慢さに、胸が突き刺さる傑作ミステリーです。ぜひ読んでみてください。



5年 環境生命コース
田中 北斗さん

『下町ロケット』 池井戸 潤 著

『下町ロケット』は、池井戸潤による、町工場の技術者たちの挑戦を描いた物語です。主人公の佃航平は、会社の危機や大企業との争いに直面します。それでも自分たちの技術と夢を信じ、仲間と困難に立ち向かいます。仕事や夢に本気で向き合う人の姿に、心を動かされる一冊です。



『探偵ガリレオ』 東野 圭吾 著

東野圭吾の『探偵ガリレオ』は、物理学者・湯川学が、刑事の草薙とともに不可解な事件の謎を科学的に解き明かしていく連作ミステリーです。突然燃え上がる人や幽体離脱など、一見ありえない事件の真相を論理的に解明していく展開が面白く、理系の人にもおすすめの一作です。



5年 情報システムコース
住 彩乃さん

『あるかしら書店』 ヨシタケシンスケ 著

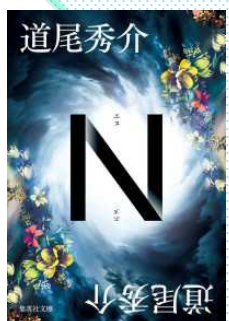
「こんな本があったらいいのに」と思ったことはありませんか？『あるかしら書店』には、思わず笑ってしまうような夢の本が次々と登場します。ヨシタケシンスケさんらしい、ゆるくて味のある絵とともに広がる楽しい世界に、あなたも少しだけ入り込んでみませんか？



『N』 道尾 秀介 著

道尾秀介の『N』は、六つの物語が一つにつながる連作短編集です。最大の特徴は、読む順番を読者自身が自由に選べること。同じ物語でも読む順番によって印象や意味が変化し、登場人物の心情や出来事の真相も違って見えてきます。読者自身が物語を組み立てる、新感覚のミステリー小説です。

5年 建築コース
中田 緑さん



Book Hunt 2026 Report



2026 / 8 / 17 (Mon)

今年のブックハントは、九州大学中央図書館（伊都キャンパス）の見学と、天神の書店での選書を行いました。大学図書館の充実した設備に触れ、実際に本を手に取りながら、みんなで図書館に置きたい本を選びました。



大学図書館の見学と
書店での選書

1.

Library Visit & Book Selection

今年は2～5年の希望者8名（2-1 寺西淳大、2-1 井上泰誠、2-2 秦颯汰、2-2 安倍華子、2-3 安倍舞子、2-3 本村穂花、4I 三池彩弥加、5A 上村明美（敬称略））と図書館室員からCLコース石川元人・G科 山田高明が参加し、九州大学中央図書館（伊都キャンパス）を見学しました。そのあと、天神の書店でブックハンティングを行いました。大学の図書館では、広い閲覧スペースや多様な学習環境に触れ、図書館の魅力や役割について学ぶことができました!!



吹き抜けの開放的な空間。
たくさんの本に囲まれた
素敵な図書館でした!



ハンドル式移動書架を実際
に回して動かしました!
たくさんの本を積んだ棚が
ゆっくり動くのは圧巻!



書店での選書の様子。各自思い思いの本を選びました。



大学図書館で幅広い分野の蔵書に触れた後、書店ではその経験を生かし、各自が校内の図書館に置きたい本を選びました。普段は手に取らない分野にも目を向けながら、それぞれの興味に沿って本をじっくり探しました。今回選んだ本は、今後、校内の図書館に並ぶ予定です。ぜひ楽しみにしててください!

参加したみなさんの感想と、今回のブックハントの印象的なポイントを紹介します。

開放的な空間と本の壁

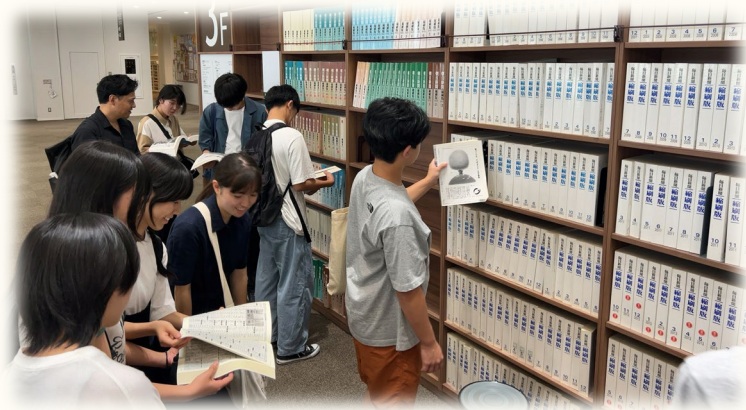
「中央図書館の吹き抜けや、ずらりと並ぶ本の壁は圧巻でした。自然光が差し込む開放的な空間で、本に囲まれている雰囲気がとても印象的でした。」

居心地のよい学習空間

「さまざまな学習スタイルに合わせたスペースがあり、自分に合う場所を選ぶのがありがたいと思いました。また、階が上がるにつれてフロアの色が明るく活動的な色に変わっていくのも面白く、印象に残りました。」

新しい分野の本との出会い

「九大図書館では、本が内容や分野ごとに番号で整理されていて、探したい本をすぐに見つけられました。蔵書が豊富で、新しい本も多く、すごいと思いました。そこで面白そうだった本のうち、丸善にもあったものをブックハンティングで選びました。」



Teachers' Voice !

学生のみなさんが興味を持って本を手に取り、熱心に話し合いながら選ぶ姿がとても印象的でした。図書館をより良くしたいという気持ちが伝わってきて、頼もしく感じました。(室員・石川元人)

普段の授業では見られない一面や、それぞれの好きなことへのこだわりが垣間見えて、とても楽しい時間でした。今回選んだ本が、これからの学びや新たな興味につながることを期待しています。(室員・山田)



どのように本を選びましたか？

「私は今年の後期からコース分けて専門的な事を深く習っていくのでそういう時にどんな本があれば役に立つか、勉強になるかを考えた」

「あまり専門的過ぎないことです。コース選択のこともあり、今から新たな分野について学んでいく中で難しいことを取り入れるのではなく、色んな分野に足を踏み入れる1歩になる本を意識しました」

今回のブックハントで印象に残ったこと

- 1 みんなで話し合いながら本を選ぶ楽しさ。
- 2 自分の興味の幅が広がる新しい本との出会い。
- 3 大学図書館の充実した環境と、自由に学べる雰囲気。

有明高専の図書館に取り入れたいこと！

- ・一人一人の空間を大切にしているところを取り入れたい。
- ・様々な形で勉強できるスペースを取り入れる。
- ・1人用の個室を作る。
- ・休むだけの椅子を設置する。勉強を教えてくれる専攻科生。
- ・ホワイトボードが付いている机を設置する。





〈図書ツアー〉参加学生が選んだ図書一覧



書名	著者名等	書名	著者名等
オブジェクト指向UIデザイン ～使いやすいソフトウェアの原理～ 改訂新版	ソシオメディア株式会社/藤井 幸多	エネルギーの地政学 ～エネルギー・トランジションと日本の戦略～	橋本 道雄/中井 遼 編
SAVE THE CATの法則で売れる小説を書く	ジェシカ・プロディ	複雑な問題をどう解決すればよいのか ～環境社会学の実践～	宮内 泰介/三上 直之 編
「考える技術」と「地頭力」がいきなり身につく東大思考	西岡 忼誠	母を愛していても理不尽な要求は断っていい、とAIは言った。～未来予測:わたしたちとAIはどう生きるか～	博報堂メディア環境研究所/山本 泰士
自分の中に毒を持って ～あなたは“常識人間”を捨てられるか～	岡本 太郎	美しいアンティーク鉱物画の本 増補愛蔵版	山田 英春 編
UIデザイン必携 ～ユーザーインターフェースの設計と改善を成功させるために～	原田 秀司	HTML&CSS Webデザイン ～現場レベルのコーディング・スキルが身につく実践入門～	小豆沢 健
睡眠のサイエンス ～日々のパフォーマンスを高める睡眠の正しい知識～	柳沢 正史	世界でいちばん素敵な物理の教室	東京大学CAST
SFを科学する ～士郎正宗を作るには～	士郎 正宗	天才たちのしくじり	ケイティ・スボルディング/雨海 弘美
日本一やさしい法律の教科書 ～これから勉強する人のための～	品川 皓亮/佐久間 毅	バルタザール・グラシアン 賢人の知恵 エッセンシャル版	バルタザール・グラシアン
ポケット六法<令和8年版>	森田 宏樹/小泉 直樹/石川 健治 編集代表	コミック量子もつれの不思議な世界 ～なぜ誰も量子力学を理解できないのか～	JEFFREY BUB
寺本康之の面接回答大全 ～公務員試験～<2027年度版>	寺本 康之	時間の正体～宇宙・生物・心・脳・芸術・社会・哲学・人生の視点から読み解く!～	藤沢 健太/一川 誠
段ボールで作る!動く、飛ぶ、遊ぶ工作 ～身近な材料で学ぶエンジニアリング～	Jonathan Adolph	今と未来がわかる生成AI ～進化と活用～	中村 俊也
機動戦士ガンダム宇宙世紀vs. 現代科学 ～あの技術がついに現実に!?!～	伊藤 篤史/笠田 竜太/金子 俊郎/福田 努/小池 耕彦 ほか著	一度読んだら絶対に忘れない物理の教科書	池末 翔太
沈黙の春	レイチェル・カーソン	最強にわかる日常で使える数学	高木 徹
図解アトリエ・ワン<3>	アトリエ・ワン	世界のかけら図鑑	古河 郁
インテリアの解剖図鑑	—	世界の「なぜ?」がまるわかり!面白すぎる地理の話	瀧波 一誠
建物種類ごと用語図鑑	—	宇宙用語図鑑 ～おもしろすぎる!～ 新版	二間瀬 敏史
ぜんぶ絵でわかる<2> 建築設備	飯野 秋成	電子工作入門以前 ～電気・電子・回路・部品の基礎知識～ 改訂新版	後閑 哲也
ローカルコミュニティが生まれる空間とデザイン	パイインターナショナル 編	「電子回路、マジわからん」と思ったときに読む本	堀 桂太郎
防災の超図鑑 ～すごすぎる天気図鑑～	荒木 健太郎	すごい宇宙講義	多田 将
ニュートン先生の次元講義	浅井 祥仁	アメリカの中学生が学んでいる14歳からのプログラミング	ワークマンパブリッシング
iPS細胞の研究室 ～体のしくみから研究の未来まで～	志田 あやか	日本の家と町並み詳説絵巻 ～縄文から平安、戦国、江戸、明治・大正・昭和まで～	—
法医学教授が教えている死体の授業	飯野 守男	1週間で0言語の基礎が学べる本 第2版	亀田 健司
ボイコットする身体 ～脳神経科医が出会った心身症患者たちの物語～	スザンヌ・オサリバン/高橋 洋 (翻訳家)	光と色のデザイン技術	建築知識 編
脱スマホ術 ～「何もせず1日が終わった」がなくなる～	戸田 大介	ゆるっとはじめるRobloxゲームプログラミング	杉山 悠真
なぜ男女の賃金に格差があるのか ～女性の生き方の経済学～	クラウドディア・ゴールドフィン	背景の描き方 ～基礎から実践まで全網羅～	高原 さと
まちは言葉でできている	西本 千尋	星宙(ほしぞら)の飛行士 ～宇宙飛行士が語る宇宙の絶景と夢～	油井 亀美也/林 公代/宇宙航空研究開発機構



※既に蔵書があったものも掲載しています。



図書館統計



令和7年利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	25	24	26	26	17	20	26	22	22	21	19	21	269
入館者総数	3,467	4,828	4,042	5,409	1,247	875	3,952	4,851	3,412	4,224	2,210	953	39,470
(内夜間)	444	756	500	855	83	0	456	1,121	454	742	241	0	5,652
(内土曜日)	76	144	144	142	13	0	63	207	61	113	84	0	1,047
1日平均	139	201	155	208	73	44	152	221	155	201	116	45	143
貸出冊数・総数	229	225	206	168	43	168	168	95	363	193	76	11	1,791
(内夜間)	30	37	34	39	7	0	28	26	35	13	6	0	255
(内土曜日)	1	10	7	3	0	0	1	1	1	2	0	0	26
1日平均	9	9	8	6	3	1	6	4	17	9	4	1	6

分類別図書貸出冊数の推移

年 度	総記	哲学	歴史	社会	自然	工学(*1)	産業	芸術	語学	文学	多読	その他(*2)	合計
令和3年度	20	69	39	62	128	635	3	17	41	269	104	457	1,844
令和4年度	12	69	28	43	223	610	4	21	33	347	116	561	2,067
令和5年度	62	81	24	52	170	440	7	37	44	480	48	482	1,927
令和6年度	59	110	24	51	128	410	3	39	56	439	224	601	2,144
令和7年度	42	56	16	51	146	269	8	23	45	330	79	447	1,512

*1 H27年度以降の「工学」は、007情報科学、430-439化学、460-469生物一般の貸出冊数が含まれる

*2 「その他」は、文庫・新書および雑誌の貸出冊数を示す

利用状況の推移

年度	開館日数	利用登録状況				入館者数		貸出冊数				1日当たりの数値		1人当たりの数値	
		総数	(内学生)	(内教職員)	(内学外利用者)	総数	(内夜間、土曜日)	総数	(内学生のみの貸出冊数)	(内夜間、土曜日)	(内学外利用者)	1日当たり入館者数	1日当たり貸出冊数	学生1人当たり貸出冊数	利用者1人当たり貸出冊数
令和3年度	267	1,278	1,120	148	10	34,655	4,409	1,844	1,632	306	59	130	7	1.5	1.4
令和4年度	268	1,291	1,121	157	13	32,781	3,997	2,067	1,677	390	113	122	8	1.5	1.6
令和5年度	264	1,267	1,116	139	12	36,676	5,061	1,927	1,633	343	93	139	7	1.5	1.5
令和6年度	267	1,245	1,092	143	10	38,561	5,808	2,144	1,837	340	89	144	8	1.7	1.7
令和7年度	269	1,222	1,075	137	11	39,470	5,652	1,512	1,285	281	52	147	6	1.2	1.2

※過去号掲載の統計数値に一部誤りがあったため、本号では修正後の数値を掲載しています。

学年別図書貸出冊数

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	専攻科1年	専攻科2年	合計
令和3年度	172	106	261	460	303	250	80	1,632
令和4年度	189	289	195	393	376	105	130	1,677
令和5年度	356	56	506	156	332	109	118	1,633
令和6年度	384	361	179	488	243	84	98	1,837
令和7年度	218	74	424	122	297	80	70	1,285



特設コーナー

原著をたずねるということ

図書館運営室員 石川元人

ポリマーは特定の分子単位が繰り返し連結してできる巨大分子である。例えば、タンパク質、DNAやRNA、セルロースやデンプンは生命を支えるポリマーである。また、ポリマーは衣類や食品包装、ペットボトルなど、私たちの身の回りにも広く存在する素材としての側面も有する。地球上の生命も、私たちの生活も、ポリマーなしには成り立たない。

セルロース分子を束ねた極細繊維であるセルロースナノファイバー（CNF）は、植物細胞壁の主成分であり、軽くて強い材料として注目されている。ハワイでモンキーポッドの大きな枝が重力に逆らって水平に伸びている様子をみたとき、細胞壁をなすCNFの軽さと強さに思いを馳せたことがある。私の研究のひとつは、CNFが他のポリマーとどれほど親和性をもつのかを、エネルギーの観点から評価することである。CNFと生分解性プラスチックをうまく組み合わせれば、軽量で強い循環型材料を創製できる可能性があり、そのためには物質どうしの「相性」を知ることが欠かせない。

学生時代、この研究を始めると教科書ではどうしても物足りなくなり、国内外の論文や古い著作を、引用文献をたどりながら読み進めた。なかでも大きな影響を受けたのが、Paul J. Floryの『Principles of Polymer Chemistry』である。1953年刊行の高分子科学の古典で、Floryは1974年にノーベル化学賞を受賞した。後の教科書では数行に整理されている内容が、原著では「なぜそう考えたのか」という思考の道筋とともに記されている。英文を一文一文、ときには一語ずつ読み、「なぜこの言葉を選んだのか」と考えた時間は、研究を続ける私の原点のひとつになった。また、海外の学問を日本語へ移し、新しい概念に言葉を与えてきた先人の洞察と努力にも気づかされた。

原著をたどると、科学が一直線に完成したのではなく、時代ごとの世界観、試行錯誤、時には誤解の中から形づくられてきたことがわかる。先人の研究を読み、自らも研究成果を残すことは、知識の源流を次代へつなぐバトンリレーなのだと思う。

卒業や進級を機に教科書を手放す人もいるが、ぜひ一冊でも手元に残し、読み切ってみてほしい。わからない一文に立ち止まり、前のページへ戻り、引用された本があれば図書館で探し、さらに元の論文へさかのぼる。図書館は万人に開かれた知識の水脈である。

今日日、AIに要点をまとめてもらえば、「何が書いてあるか」はすぐにわかる。しかし、一文一語に悩み、別の本を開き、考え続け、ようやく腑に落ちるまでの時間こそが、知識を自分のものにし、人を育てる。「人はちょうど良い時に、ちょうど良い本に出逢うものだ」ということばもある。ときには教科書を開き、その先にある原著まで、知識の源流をたずねる散歩に出かけてみてはいかがだろうか。

編集後記

4月より図書館に異動してまいりました。休日は絵を描いたり、街を歩いて気になる場所を巡ったりして過ごしています。本屋や古本屋を見かけると、よく立ち寄ります。

本棚を眺めていると見過ごしてしまいそうな本が目に残ることがあります。そうして手にした本は何度も読み返すほどのものや一度きりのものなど様々ですが、それらには「その日・その場所の記憶」がどこかに残っていて、ページをめくると風景や出来事がふと頭の中によみがえってくることがあります。忘れかけていた興味・関心を思い出させ、ときには思いがけない世界へのきっかけになることもありました。

私にとって本は知識を得るためのものというだけでなく、記憶や時間をそっとしまっておく箱のような存在なのかもしれません。本との付き合い方は人それぞれかと思いますが、そんな出合いを気軽に楽しめるのは、図書館ならではの醍醐味のひとつではないでしょうか。皆さんにとって新たな発見や思い出につながるような一冊を見つけるお手伝いができれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。[図書係・武田雅恵]